

キナバタンガン川

サバ州

マレーシア

South
Sea

ボルネオ 保全トラスト・ ジャパン 案内 2019



Borneo Conservation Trust Japan Guidebook



目次

P02-03



1 組織・ミッション

P04-05



2 緑の回廊プロジェクト

P06-07



3 ボルネオへの恩返しプロジェクト (BES)

P08-09



4 マレーシア現地での活動

P10-11



5 日本国内での活動

P12-13



6 企業とのパートナーシップ

P14 支援自販機リスト



P15 あゆみ

Borneo Conservation Trust (BCT) 理事会 2017 - 2020

議長代理 & 名誉事務局長

Datuk Dr.Laurentius N.Ambu (Phd cum Former director, SWD)

財務理事

Mr.Yusuke Saraya (President, Saraya Corporation Ltd.,)

理事

Mr.Augustin Tuuga (Director, SWD)

Datuk Dr.Kalyana Sundram (CEO,MPOC)

Mr.Denys Collin Munang (Director Sustainability, Eagle Hight)

スタッフ

Ms.Josephine Maluda (Admin & Finance Manager)

Mr.Jimmy Omar (Environment Education Coordinator)

Ms. Easter Leong (Admin Exective)

レンジャー

Mr.Ben Romero Didmus

Mr.Fillipi Adrian Francis

Mr.Claudino Clive Yuntan

認定特定非営利活動法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン

理事長

石田 聡 (千葉市動物公園 前園長)

理事

青木 崇史 (ボルネオ保全トラスト・ジャパン事務局長)

荒川 共生 (環境教育ファシリテーター)

池田 泰子 (嵯峨美術大学 デザイン学科 教授)

石崎 雄一郎 (認定NPO法人環境市民理事 ウータン・森と生活を考える会事務局長)

岩村 恵子 ((有)ズー・サポート・ネット代表取締役 / ヤマザキ動物専門学校講師)

加藤 登紀子 (歌手 / 元国連環境基金親善大使)

金子 正美 (酪農学園大学環境共生学類教授)

黒鳥 英俊 (日本オランウータン・リサーチセンター代表)

更家 悠介 (サラヤ株式会社代表取締役)

代島 裕世 (サラヤ株式会社取締役コミュニケーション本部本部長)

竹田 正人 (宮崎市フェニックス自然動物園 副園長 / 獣医師)

東井 浩子 (中学校教師)

中西 宣夫 (サラヤ株式会社 調査員)

坂東 元 (旭川市旭山動物園園長 / 獣医師)

水品 繁和 (市川市動植物園)

森井 真理子 (フリー編集者)

監事

山田隆雄 (東京サラヤ株式会社総務部)

ボルネオの生物多様性を、マレーシアの人々と共に保全します

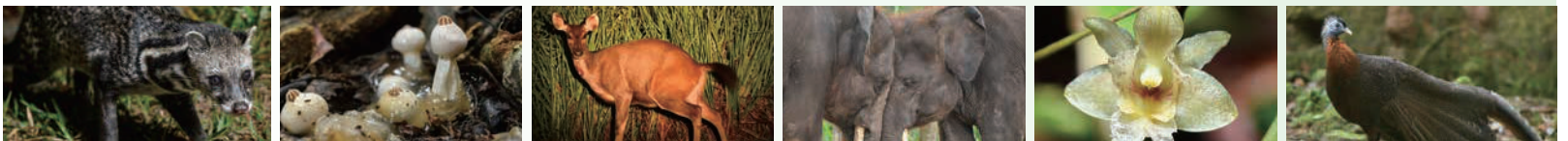
ボルネオの熱帯雨林は氷河期にも凍結しなかった太古の森で、地球温暖化の一因になっている二酸化炭素の吸収・蓄積、酸素供給、蒸発散作用による地球環境を調整する役割を担っています。また、生物多様性のホットスポットと呼ばれるほど多種多様な動植物が生息しています。

しかし、木材生産のための伐採とそれに続くパーム油生産のためのアブラヤシプランテーション開発により熱帯雨林は激減し、また分断されました。そこに生息するボルネオオランウータンやテングザルをはじめとした多くの生物が絶滅の危機に陥っています。

自然を織物にたとえれば、それぞれの生物は1本1本の糸です。1本の糸が引き抜かれてもすぐに影響が出るわけではありませんが、織物は1本なくなるとに確実にほどけていきます。手遅れにならないうちに、何とかしなくてはなりません。

ボルネオ産の木材やアブラヤシから採るパーム油は、貴重な資源として世界中で消費され、日本も例外ではありません。ボルネオの環境破壊は資源を消費する国の企業や消費者にも責任があります。

BCTJは、ボルネオの生物多様性を保全するために、マレーシア国サバ州で、地元の人々とともに緑の回廊などさまざまな活動を行っています。



生物多様性を保全するために

サバ州は北海道とほぼ同じ面積の土地に、250種類以上の哺乳類、670種以上の鳥類、合わせると500種以上の両生類・爬虫類、数えきれないほどの昆虫など、多種多様な動植物が生息しています。

しかし、開発による熱帯雨林の激減と分断化のために生物の個体数は減少し、遺伝子の多様性の低下が起こっています。

生物多様性を保全するためには生態系が連続していることがたいせつです。生息地が繋がっていれば、動物たちは未来に命をつなぐことができるのです。BCTJは、分断化された熱帯雨林をつなぐ緑の回廊、野生ゾウの保全活動に取り組む野生生物局の支援を行っています。

パーム油は最も生産量が多く、単位面積当たりの収穫量も多いため安価で、多様な使用用途を持つ優れた植物油であり、今後の人口増大に対応できる唯一の油といわれています。パーム油、木材といった自然資源には限りがあるため、より環境負荷の少ない利用が求められます。持続可能な手段での熱帯雨林の開発や生産地に生息している野生動物の保護など、未来を見据えた資源利用が必要です。

次世代につなぐ

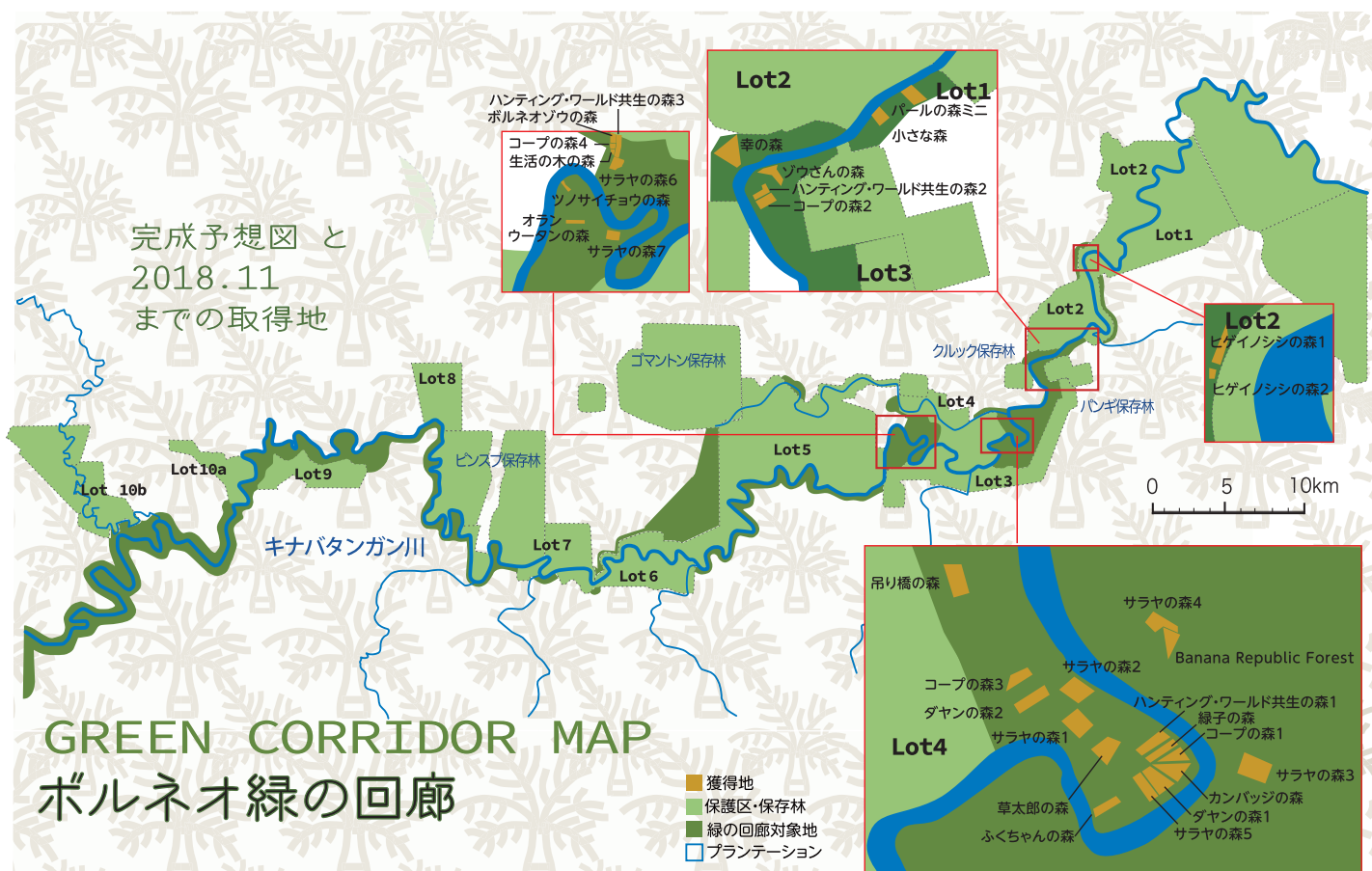
生物多様性保全活動は「これで完了」という終点はなく、刻々と変化していく状況に常に対応していかなければなりません。日本でもマレーシアでも未来を担うのは子どもたちです。自然や生物多様性の重要性、持続可能な社会の在り方など、教室での講義だけでなく、自分の目で見て感じてもらうこと、現在の行っている保全活動の成果やうまくいっていないことを伝え、自分たちで考え行動できるように、次世代につなげていく活動を行っています。

持続可能な社会を



緑の回廊プロジェクトは、ボルネオ島北東部サバ州を流れる全長 560km のキナバタンガン川流域に点在する森林保護区や保存林の間にある土地を確保して野生動物が自由に移動できる移動できるようにし、遺伝子や種の生物多様性を保全することを目指すプロジェクトです。

緑の回廊プロジェクト



人類と地球の生態系との緑の絆を結ぼう

ボルネオでは森林伐採、それに続くアブラヤシプランテーションの開発が進み、森林は細かく分断されてしまいました。野生動物には広大な生息地があれば理想的ですが、人間による開発が進んだ現代ではなかなかそうもいきません。多少狭くても生息地が連続してつながっていれば、エサやパートナーを探しに移動することができます。

2000年代初頭、サバ州野生生物局（SWD）はキナバタンガン川下流域保護区を指定しました。しかし、その地域はすでにアブラヤシのプランテーションが開発されており、保護区は飛び地のようになかなかそうもいきません。多少狭くても生息地が連続してつながっていれば、エサやパートナーを探しに移動することができます。

緑の回廊は、この保護区と保護区間の土地を確保して

生息地をつなぎ、動物たちが自由に行き来できるようにするものです。キナバタンガン川下流域保護区は全体で 2.7 万 ha と広大です。しかし実際は数千 ha 規模の保護区（LOT1～10）に分断されています。2万 ha の「緑の回廊」でこれらをつなげることができれば動物たちは 4.7 万 ha の森を自由に起動できるようになるのです。

緑の回廊の対象地は保全価値が高く、かつ人が住んでいない土地です。河岸に面した土地は雨季になると水量が増え、地面が見えなくなることもあります。回廊をつなぐと東端は広い（別の）森林保護区、西端は原生林につながります。現在は、優先順位の高いクリティカルエリア（約 3000ha）から緑の回廊計画を進めています。



獲得した土地に与えられる
緑の回廊土地証明書
（画像は「草太郎の森」）



Project

キナバタンガン川の河岸までプランテーションは広がる。自然の森は河岸の奥に残っているだけ。河岸の手前にあるのは、プランテーション。同じような大きさのアブラヤシが規則正しく植えられている。写真右上の青い屋根は観光客用ロッジ。

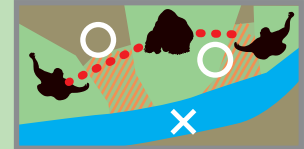
土地をつなぐということ（概念図）



✗ 生息地が分断されている状態



○ 生息地をつないで緑の回廊をつくる



森が分断されていると、野生動物は他の森に移動できずエサやパートナーを探すのが難しい。たとえ狭くても生息地が連続していることが野生動物にとって重要だ。

日本の企業や市民の協力で緑の回廊 32 区画（約 80ha）を確保しました

緑の回廊土地購入プログラムは、BCT が土地売買の交渉・手続きを担い、BCTJ が資金を提供し、BCT の理事の名義で土地登記を行います。正確に言うとマレーシアの土地は国有なので、土地の売買ではなく、土地のリース権の売買です。資金提供から登記完了まで、通常でも半年から 1 年かかります。

BCTJ は「ボルネオの野生動物のために緑の回廊を作ろう」と動物園や大学の文化祭、イベントなどで緑の回廊の広報活動、チャリティカンパジ、サポートグッズ販売を行い、市民や学生、子どもたちから寄付をいただきました。また、サラヤ（株）、ハンティング・ワールド・ジャパン（株）、わちふいーろど（株）、生活の木（株）などさまざまな企業の協力もいただいています。1 区画分の資金をいただいた場合は、その森の名前を付けていただけます。

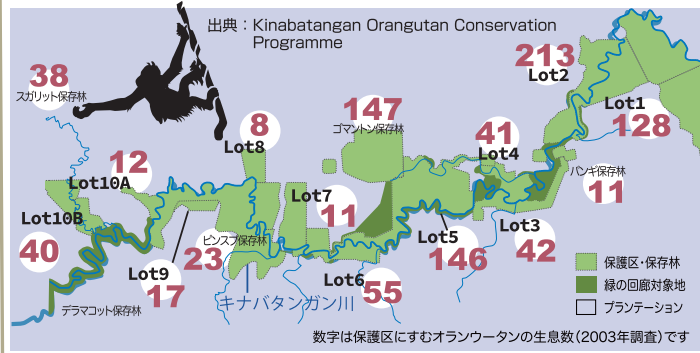
BCT はプランテーションとの協働で緑の回廊作りを目指します

キナバタンガン川下流域には大手プランテーション企業が多く、これらの企業が生物多様性保全活動に乗り出せば大きな力になると期待されています。欧米 NGO の批判もあり、プランテーションも生物多様性保全に関心を持ち始めました。

緑の回廊の対象地でも、土地の所有権を譲与はしないが、野生動物が通ることは容認し、保全に協力しようというプランテーションも出てきました。

BCT は、プランテーションやリゾート企業が野生動物のために提供した土地で保全活動を行う共同プロジェクトを進めています。すでに、2 つの現地企業から計 320ha の土地の管理を任せられ、他の企業とも交渉中です。

キナバタンガン川下流域のオランウータンの推定生息数



地図の薄い緑色の部分は、保護区と保存林です（薄紫部分はほとんどがアブラヤシプランテーションです）。たとえば保護区 LOT 8 にはオランウータンは 8 頭だけ。子孫を残すためにはアブラヤシのプランテーションを越えて遠くまでパートナーを探さなくてはなりません。



マレー語で「森の人」を意味するオランウータンは樹上で生活し、めったに地面に降りることはありません。果物や葉、昆虫などを食べ、寝るときは毎日に枝でベッドをつくります。枝から枝へと移動して暮らすオランウータンは森がつながってないと生きていけないのです。ボルネオオランウータンは、この 100 年間で 90% 減少したといわれ、絶滅のリスクが高まり 2016 年にはレッドリストで絶滅危惧種 1A (CR) になりました。

キーワード

【ボルネオオランウータン】

オランウータンは東南アジアに生息する大型類人猿で、スマトラ島にスマトラオランウータン、タバヌリオランウータン、ボルネオ島にボルネオオランウータンがいます。ボルネオオランウータンは 54000 頭生息していると推定されていますが（2004 年）、アブラヤシプランテーションの開発で生息地の減少、分断化、また、違法なベット販売などで個体数はどんどん減っています。オランウータンの出産は通常 1 子で、母親が付ききりで赤ちゃんの面倒をみるため出産間隔は 6〜7 年といわれています。そのため個体数が減りだすと、回復は難しくなります。



BCT/2019



木材やパーム油などボルネオにお世話になっている日本人の私たち。そのあおりをうけて野生動物は窮地に陥っています。ボルネオの野生動物に恩返しをするのがボルネオへの恩返しプロジェクトです。現在はボルネオゾウの保護施設（BES）の建設、運営支援を中心に行っています。

ボルネオへの恩返しプロジェクト



レスキューセンター1期工事で作ったゾウのパドック（左の大きな屋根）。メス1頭、オス1頭が保護されている（2019年3月）

SWDとともにボルネオゾウの保全活動を行っています

10年前、ボルネオに初めていった旭山動物園の坂東園長は、アブラヤシプランテーションの拡大に圧倒され、野生動物の窮状を見て恩返しプロジェクトを立ち上げました。当時から、サバ州野生生物局（SWD）は農業被害を起こしたゾウを捕獲して保護区の森に戻す活動「トランスロケーション」を行っています。視察した坂東園長はゾウを移送する檻があまりに脆弱で人間とゾウ共に危険があるので、恩返しプロジェクトの第1弾として、ゾウの移送用檻を日本で製作してSWDに寄贈しました。丈夫で使い勝手のいい檻はその後1台追加贈呈され、現地で大活躍しています。

SWDは「ボルネオゾウアクションプラン2012～2016」の中で調査、トランスロケーション、レスキューセンターの建設を保全策として掲げました。しかし、2012年になって保護される個体が急増し事態は緊迫。SWDの要請で旭山動物園とBCTJはレス

キューセンター1期工事として、最小限の施設（ゾウのパドック、倉庫、スタッフ宿舎）を建設しました。

1期工事は、IA研究所、アスタ、大成建設、NTTデータ、郵船ロジスティクス、帝人、サラヤ、ハンティングワールド・ジャパンなど多くの日本企業の協力をいただきました。2013年9月に大規模な開所式が行われた際、レスキューセンターはBorneo Elephant Sanctuary(BES)と名付けられました。

その後、パドックの屋根・水道工事と泥場工事を、大成建設とA-oneの協力を得て行いました。



レスキューセンター開所式（2013年9月）。左から坂東園長、SWD局長、マシディ・マンジュン観光文化環境大臣



ゾウのエサは、ネピア（イネ科の草）とバナナの幹。週3回近隣の村から搬入される。



スタッフはSWDとBCTJが派遣している。ローテーションでBESの宿舎に泊まり込んで働いている。



日本の動物園6園とBCTJの協定締結記者発表。BCTJ事務局長、豊橋市長、旭山動物園園長、神戸どうぶつ王国園長（写真左から）。

BESのエサやスタッフ人件費支援なども行なっています

2015年3月、人を襲い「害獣」として捕獲されたオスゾウ1頭が保護されたのを皮切りに、今までに数頭のゾウが一時的に滞在しました。滞在中に死んでしまった個体や森に返された直後に死骸が見つかった個体がでるなど、問題解決の難しさを表しています。

施設の当初の目的はゾウの一時的保護施設でしたが、村人を襲ってけがをさせたなど森に戻せないゾウが長期滞在することになりSWDの運営予算が不足したため、BCTJが運営資金の支援も行なうことになりました。具体的には、スタッフ2人分の人件費、ゾウのエサを支援しています。BCTJ

が近隣の村の住民組織に依頼し、ネピアグラスとバナナの幹を計2500kg/週ゾウのエサとして運搬しています。

2018年、政府予算によってBESの2期工事となる大規模な放飼場の工事が始まりました。サバ州で保護しているゾウは年々増え、既存の施設での収容は限界にきており、施設の拡充が望まれています。BCTJにもSWDから建設支援要請がなされており、今後も支援が求められます。

恩返しプロジェクトの資金は、ボルネオ支援飲料自販機約200台（P14参照）、サポートグッズによる支援、寄付などで調達しています。

国内、海外の動物園にも支援の輪は広がっています

台湾の台北市動物園は2014年旭山動物園とボルネオの保全活動を共に行うという協定を結んでいます。

2018年には、日本の豊橋総合動植物園、福岡市動物園、鹿児島市平川動物公園、神戸どうぶつ王国、那須どうぶつ王国、旭川市旭山動物園、BCTJが協定を結び、いっしょにボルネオ保全活動を行うことになりました。今後、保護ゾウが増えることを見越して、現地視察を行い、保護施設の整備、飼育技術の移転などを行っていきます。動物園は「自然への窓」です。今後はそれぞれの動物園で日本の子どもたちに、環境教育の講義やワークショップを行っていきます。



ゾウはアブラヤシの若木を倒して木の髄を食べる

死んだ母ゾウに寄り添う子ゾウ。

保護された孤児ゾウ。まだミルクが必要な年頃。



アブラヤシプランテーションを闊歩するゾウの群れ。危険なので労働者は作業できない。

森が深かった昔はゾウと人間が直接会うことはなかったのですが、森がアブラヤシのプランテーションに換わってからは、ゾウと人間の衝突が多発しています。ゾウは大量の農産被害を及ぼしています。それを防ぐためにゾウが殺されてしまうこともあるのが現実です。また、群れの成獣が殺されたり、群れからはぐれたりして、保護される赤ちゃんゾウも毎年数頭います。保護せざるを得ない赤ちゃんゾウですが、人の手で育てたゾウは森に戻って暮らすことはできません。

キーワード

【ボルネオゾウ】

ボルネオ島北東部（主にサバ州）だけに約2000頭生息するゾウでアジアゾウの仲間です。小柄、まっすぐな牙、地面に着くほどの長い尾が特徴です。森や河岸を群れで移動しながら、草木を食べ、タネの残る糞をしていくので「森の種まき」の役を果たしています。元々ボルネオ島にいたのか、それともアジア大陸から移動してきたのか、絶滅したジャワゾウの子孫なのか、その出自は謎に包まれています。

森が深かった昔はゾウと人間が直接会うことはなかったのですが、森がアブラヤシのプランテーションに換わってからは、ゾウと人間の衝突が多発しています。ゾウは大量の農産被害を及ぼしています。それを防ぐためにゾウが殺されてしまうこともあるのが現実です。また、群れの成獣が殺されたり、群れからはぐれたりして、保護される赤ちゃんゾウも毎年数頭います。保護せざるを得ない赤ちゃんゾウですが、人の手で育てたゾウは森に戻って暮らすことはできません。



BCTJ2019



生息地である熱帯雨林は減少、分断化されて、オランウータンやボルネオゾウなどの野生動物は、移動が制限され、人間との軋轢が増すといった問題に直面しています。BCTJ は、当面の問題を少しでも解決するために現地で野生動物の保全活動を行っています。

マレーシア現地での活動

現地に住む人々と共に活動することを心がけています

「熱帯雨林の伐採は環境破壊だ」「オランウータンは絶滅危惧種だから手厚く保護すべき」と外国に住む人々が論評することは簡単ですが、その土地に住んでいる人々がどうやって暮らし、どのように考えているのかを知らなくては、効果のある解決法は見つけれません。生物多様性保全の活動は、地元の人々とともにやっていくことが重要です。

BCTJ は、BCT と情報を共有して緑の回廊プロジェクトを進めています。また、BES や子ゾウのミルク支援については SWD と協議しながら、よりよい方法を探っています。吊り橋や生態調査などのプロジェクトは村の人々と共に進めています。

今後も環境教育やワークショップを通して日本と現地の相互理解を深め、ともに活動していきます。



生態調査



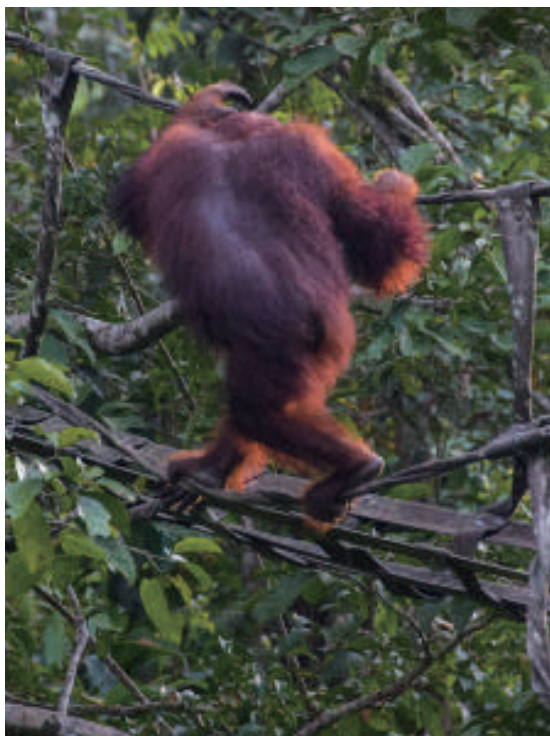
現地の小学生とペンキ塗りワークショップ (2014)



SWD と BES についての打ち合わせ (2017)



ゾウのエサになるネピア刈り (2017)



1号橋を渡るオランウータン (大谷洋介@京都大学)

オランウータンの吊り橋

三井物産環境基金助成事業 (2010)、
地球環境基金助成事業 (2011)

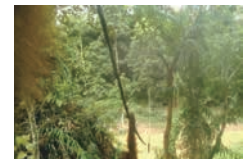
森が豊かだった昔は、オランウータンは森の木から木へ移動して川も渡っていましたが、伐採が進み森から大木がなくなると、水が怖いオランウータンは小川でも渡ることができません。

BCTJ は日本の動物園と協力して、キナバタンガン川の支流にオランウータンの吊り橋をかけました。吊り橋の材料は廃棄された消防ホース。消防ホースは丈夫で、加工しやすく、リサイクルにもなり、動物園では動物たちの遊具を作っていたのでその技術を応用しました。多摩動物公園、市川市動植物園、よこはま動物園ズーラシア、天王寺動物園、京都市動物園、千葉市動物公園、旭山動物園、福岡市動物園など日本の動物園と現地 NGO などの協力を得ています。

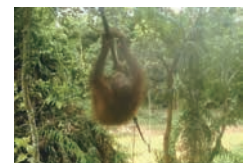
2015 年までに 6 本の吊り橋を架けましたが、大雨などで崩落したものもあります。吊り橋の有効性を再検討し、架けなおすのかどうかを検討しています。

6号橋のセンサーカメラ画像

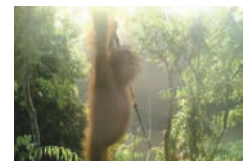
映り込んだ子どものオランウータン (2016年)



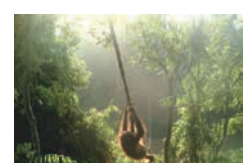
画面中央下に、腕らしきものが...



両手両足を使ってぶら下がる



両手で捕まって遠くを見つめる



おっ、進んだ

軽トラック贈呈プロジェクト



ゾウのイラストが目立っている

旭山動物園とダイハツ工業（株）が協力して、四輪駆動の軽トラック、ハイゼット3台を日本で製造、日本通運（株）のサポートで現地まで輸送し、2016年SWDに寄贈しました。ボルネオゾウが保護されているロッカウィ・ワイルドライフ・パーク、セピロクオランウータンリハビリテーションセンター、BESで、エサの運搬、スタッフの移動などに使用されています。急な坂道や大雨の後のぬかるんだ道でも、小回りの利く軽トラックは大活躍しています。

キナバタンガン・セガマ川流域生態調査

三井物産環境基金助成事業（2016～2017）

タビン保護区に隣接するダガット村の住民による野生生物生態調査を行いました。赤外線センサーカメラ20台を、人里離れて人の出入りが少ない森の樹木に設置し、定期的にSDカードを回収、画像の分析をしました。オランウータンやバンテン、マレーグマなど哺乳類43種、鳥類22種、爬虫類3種、うち希少種が19種確認されました。スマトラサイの目撃情報があったエリアなので淡い期待があったのですが、サイの痕跡は確認されませんでした。



センサーカメラを樹木に設置

サイチョウ保全プロジェクト

公益信託サントリー世界愛鳥基金助成事業（2018～）

大型の鳥サイチョウは大木のうろにメスがこもり産卵・子育てをし、その間はオスがせっせとエサを運びます。森林伐採が進みサイチョウは産卵の場所を失いつつあります。また、オナガサイチョウはカスク（くちばしの上にある突起）が装飾用などで珍重されるため、密猟が絶えません。このプロジェクトは地元のサイチョウ研究者を支援し、人工的な巣を森に掛けています。自然巣に近づけるため、巣の中に温度と湿度を計測するデータロガーを設置するなどの工夫を行っています。



人工巣は樹木の上に固定

子ゾウのミルク支援プロジェクト

人間とゾウの軋轢が高まるにつれ、毎年数頭の子ゾウが保護されるようになりました。ゾウは3歳ごろまでは母乳を飲むので、孤児になった赤ちゃんゾウには粉ミルクを与えています。生後半年間は3時間おき授乳ですからスタッフも大変です。また、毎日30リットルのミルクを飲むため、SWDはミルク代の捻出に苦労しています。BCTJはクリステル・ヴィ・アンサンプルからの寄付金で、2017年から合計3トンの粉ミルクをSWDに寄贈しています。

子ゾウは毎日30Lのミルクを飲む。吸う力も強い。



キーワード

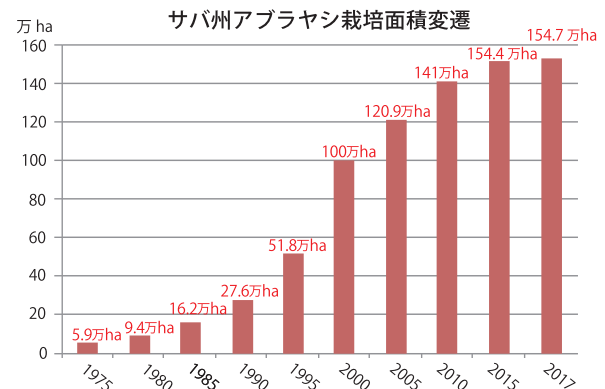
【アブラヤシ】

アブラヤシは西アフリカ原産の多年生草本で、果肉からはパーム油、実の中のタネからはパーム核油が採れます。一度植えれば20～30年は収穫できるパーム油は、エジプトの古代壁画にもその姿が確認できるほど昔から広く使われてきました。

生産が増加したのは1960年代マレーシアでプランテーション栽培（単一作物大規模栽培）が始まってからで、2000年代には大豆油を追い越して生産量世界第1位になりました。アブラヤシの栽培適地は赤道をはさんで緯度10度以内で、熱帯雨林が分布する土地と重なります。



アブラヤシのプランテーションは広さ3000ha以上、入り口にはゲートがあり、外部からは中の様子はうかがいしれない。アブラヤシの果房（実が集まったもの）は、30～40kgある。



サバ州の面積は北海道とほぼ同じで740万ha。プランテーション面積は1975年は6万haだったが、1990年代に急速に増加し、2000年には100万ha、2015年には154万haととんどん増えている。プランテーションが増えた分、熱帯雨林は確実に減っている。

プランテーションは熱帯雨林を皆伐した跡地や泥炭地に作られますから、開発の際に森や土中に貯蓄されていた二酸化炭素が大量に排出され温暖化を促進します。森の植物や動物は生息地を失い、生物多様性が失われます。また、プランテーションを開発するときには森を焼き払うため、山火事やヘイズ（煙害）を起こします。

他にも、プランテーションで働く労働者の健康問題や低賃金、児童労働、元々そこに住んでいた先住民の土地の権利問題など、プランテーションにはさまざまな問題があります。



熱帯雨林が伐採されアブラヤシのプランテーションが急拡大し、野生動物が生息地を奪われ・遠い国の話に思えますが、実は日本にいる私たちの暮らしにも深いかわりがあります。BCTJ では、パーム油や野生動物の現状、緑の回廊などについて知っていただき、市民や企業のみなさまにご支援・ご協力をお願いしています。

日本国内での活動



世界のゾウを考えるシンポジウムでは、動物園のゾウ飼育担当者や象牙問題に取り組んでいるNPOの講演で盛り上がった。(国立科学博物館)

生息地分断ゲームのあとで子ども向けにお話会。子どもも保護者の方も静かに聞いていた。(キッズプラザ大阪)



横塚真己人氏による講演会「ゾウの森とポテトチップス」(咲くやこの花館)

豊橋総合動植物園主催のシンポジウムには、旭山動物園園長やBCTJ事務局長が参加した。

イベントでのブース展示・環境教育ワークショップ

ワン・ワールド・フェスティバルやアースデイ、各地の動物園のイベント(京都市動物園、福山市立動物園、千葉市動物公園など)でブースを出展し、パネル展示やカンパッチ募金などを行っています。また、たくさん子どもたちが集まる施設(咲くやこの花植物館や神戸どうぶつ王国、板橋区熱帯環境植物館など)では、生物多様性の重要性やボルネオの野生動物の現状を理解してもらうためにワークショップを行っています。コンテンツは熱帯雨林のジオラマ、植物のトレーディングカード、動物のキーホルダー、パーム油を原料にした石鹸などを作る工作系のワークショップ、体を動かして動物の立場を疑似体験する「生息地分断ゲーム」などがあります。ワークショップを企画している方はお気軽にご相談ください。イベントの日程、詳細はBCTJのウェブサイトをご覧ください。



ワンワールドフェスティバルでは、ワークショップや講演会をやることも。



動物の話やクイズなどと一緒に「生息地分断ゲーム」(平川動物公園)

シンポジウム・講演会

BCTJでは、ボルネオの野生動物の現状や緑の回廊プロジェクト、恩返しプロジェクトなどの活動についての講演会を行っています。講師は、当法人の理事、野生動物の専門家、自然写真家などが務めています。「世界のゾウのことを考えるシンポジウム」(2018年10月、東京の国立科学博物館)など、多くの方に関心を持たれているテーマについてのシンポジウムも開催します。

また、パーム油は生物多様性喪失の大きな要因となっているのは確かですが、その一方で、安価で使い勝手がよく、これからの人口増大に対応できる唯一の植物油という面もあります。日本ではあまり知られていないパーム油やその持続可能な利用についてについて消費者や子どもたちに知ってもらうセミナーや勉強会も行います。

BCTJのイベント恒例 カンパッチ募金について



カンパッチ募金(京都市動物園「野生動物学のすすめ」)

オランウータンやボルネオゾウ、テングザル、サイチョウ、ラフレシアなど50種類以上のボルネオの動植物をデザインしたチャリティカンパッチ。イベント会場などで、200円の寄附につきひとつ差し上げます。200円で量1枚分の広さの森を野生動物にプレゼントできます。

月例会

毎月1回平日の夜東京と大阪で月例会を行っています。現地の報告や、パーム油などの勉強会、イベントなどの打ち合わせなどを行っています。どなたでも自由に参加できますので、お気軽にお越しください。不明点は事務局までお問い合わせください。



月例会は月に1回（大阪会場）

ご参加
お待ち
しています！

情報発信

ウェブサイト、Face Book、Twitter、ブログ、メルマガで、ボルネオの動物や熱帯雨林、BCTJの活動や参加イベントなどについての情報発信を行っています。詳細は裏表紙をご確認ください。

三つ折りパンフレット「緑の回廊」「恩返しプロジェクト」はイベントで無料配布しているほか、多摩動物公園や板橋区熱帯環境植物館では常設しています。BCTJの会報「ボルネオの風」、活動紹介冊子「BCTJ案内」を用意しています。パーム油関係の統計やRSPO情報をまとめた「パーム油白書」は毎年刊行しています。子ども向けの環境教育テキストや折り畳み式豆絵本などもありますので、必要な方は事務局までご連絡ください。



バナー、パネルの貸し出し

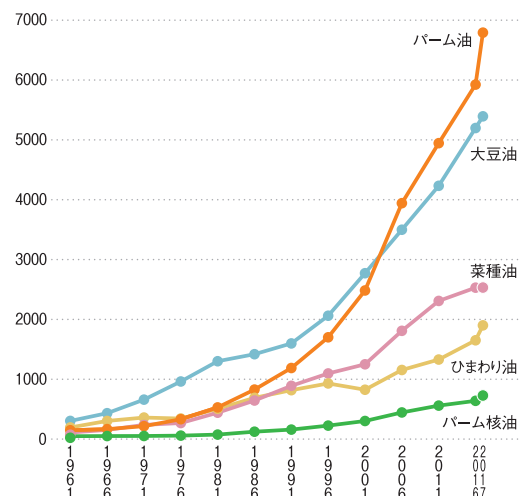
ボルネオの現状、BCTJの活動内容を紹介したパネル（B1サイズ。5枚セット）や、布製バナー（2サイズ）などを、文化祭やイベント、勉強会向けに貸し出しを行っています（貸出量無料。送料はご負担ください）。

また、カンパジ募金用のカンパジやバジ製造機、材料なども貸し出しできます。詳細は事務局までお問い合わせください。

キーワード【パーム油】

パーム油は生産量約7000万トンで、世界でいちばん生産されている植物油です。単位面積当たりの収穫量が多く、安価なため、貧しい国の人も入手できます。地球の人口は約77億人でこれからも増加し続けますが、それに対応できる植物油はパーム油だけです。日本の輸入量は年間約60万トン。一人当たり年間約4.5kgを消費しています。

パーム油の約80%は食用です。インスタント麺、ポテトチップス、チョコレート、スナック菓子、冷凍食品、アイスクリーム、コーヒーフレッッシュ、赤ちゃんの粉ミルクまで、スーパーやコンビニにある包装されている半分以上の食品はパーム油が使われているといわれています。残りの20%は非食用で、シャンプー、リンス、石鹸、化粧品などの原料、バイオ燃料、インクなどに使われています。



アブラヤシのタネ
パーム核油をとる



アブラヤシの果肉
パーム油をとる

パーム油を作るために熱帯雨林は伐採されて野生動物は窮状に陥っていますが、人間がパーム油を全く使わずに暮らすのは難しいです。パーム油を持続的に利用していくために、「持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）」が2004年に組織され、パーム油の認証制度ができました。原生林や保価値の高い森林は伐採しない、児童労働や違法労働はさせないなどの条件を満たしたものを認証油と認定するものです。認証パーム油を使うことが、持続可能なパーム油を生産するためのひとつの解決法になると考えられます。



生物多様性保全是全人類への宿題です

現在の生物多様性喪失の危機は、人間活動が深く関係しています。その人間活動の多くを占める企業が無関心では、生物多様性は保全されません。BCTJは、生物多様性保全に関心を持つ企業とパートナーシップを結んで活動しています。

企業とのパートナーシップ



法人会員になる

ボルネオ島で手がけるさまざまなプロジェクトや日本国内での環境教育や広報活動といったBCTJの活動を継続的に支えていただく仕組みです。正会員と賛助会員の違いは総会における議決権の有無です。

法人正会員 70,000円/年

法人賛助会員 50,000円/年

現在の法人会員

【正会員】

サラヤ(株) <http://www.yashinomi.jp/>
 ハンティングワールドジャパン(株) <https://www.huntingworld.jp/>
 大成建設(株) <http://www.taisei.co.jp>
 キリンビバレッジ(株) <http://www.beverage.co.jp>
 NPO 法人旭山動物園くらぶ <http://www.zooclub.jp/>
 (株) 厚友会 <http://koyukai.co.jp/>
 ファームエイジ(株) <http://www.farmage.co.jp/>
 ミサワホーム(株) <http://www.misawa.co.jp/>

【賛助会員】

石屋製菓(株) <http://www.ishiya.co.jp>
 (株) 平出章商店 <http://www.hiraide.jp>
 ガイツセラピー NORMALIZE Japan <https://www.body-normalize.jp/>
 森永製菓(株) <https://www.morinaga.co.jp>



寄付をする

継続的、また一時的な寄付でBCTJの活動をご支援ください。生物多様性を保全し、動物のいのちを未来につないでいくためにはみなさまのご協力が欠かせません。寄付先は、緑の回廊や恩返しプロジェクトなど指定することができます。



知識・ノウハウの提供

企業の持つ専門知識、ノウハウ、機動力を提供していただくことでプロジェクトは大きく前進します。BES 第1期工事ではIA研究所/設計、アスタ(株)/資材制作、郵船ロジスティクス(株)/資材輸送、大成建設(株)/現地建設工事のスーパーバイズ、旭川塗装組合/パドックの絵ペンキ塗りで、また保護ゾウのための軽トラック寄贈のときは、ダイハツ工業(株)/軽トラック寄贈、日本通運(株)/トラック輸送など、多くの企業から多様なスタイルでのサポートをいただいています。BCTJとタッグを組み、生物多様性保全活動を進めてみませんか。



ボルネオの生物多様性保全

寄付 1000
500 10

スペース



企業



商品

ノウハウ
専門知識



現地の情報提供

現地での活動



広報ツール
(パネルなど)



講師
講演会
ワークショップ

お問い合わせ

企業として
やりたいこと、できることを
お気軽にご相談ください。



BCTJができることをお伝えして、
保全活動への思いを形にして、
少しずつでも前に進めていきましょう。

Email info@bctj.jp Tel 03-3471-4966



サポートグッズ

サポートグッズの売上の一部を寄付いただくことで、ご支援いただいています。BCT のロゴをつける場合は事務局にご相談ください。緑の回廊の1区画を確保できる金額（目安 200 万円）をいただいた場合、1区画に名前を付けることができます。

サラヤ株式会社
ヤシノミ洗剤・ハッピーエレファント

パーム油の持続可能な利用、生物多様性保全を目指すサラヤは、ヤシノミ洗剤やハッピーエレファント・シリーズ（洗濯パウダー、食器洗い用ジェル）の売上げの1%を、ボルネオの生物多様性保全活動の資金として寄付しています。2009年から今までに、「サラヤの森」を7か所確保し、恩返しプロジェクトでの BES の運営やエサ支援の資金協力をしています。

ハンティング ワールド ジャパン株式会社
チャリティーグッズ

「探検・教育・保全」のもと、自然との共生をテーマにするハンティング・ワールドは、2008年からボルネオの生物多様性保全活動支援のチャリティーグッズを毎シーズン発表しています。チャリティーグッズの売上げの1%で、緑の回廊計画内に「ハンティング・ワールド共生の森」3か所を確保し、BESの建設費用などを支援しています。

お買い物で
野生動物を
応援しましょう



株式会社 生活の木
パーソナルソープ

パームオイルを使って自社製造している「パーソナルソープ」をはじめとした支援対象商品の売上げの1%を緑の回廊支援に使用しています。2017年に「生活の木の森」を確保しました。

クリステル・ヴィ・アンサンブル + R ethical

一般財団法人クリステル・ヴィ・アンサンブルでは生物多様性保全を推進する活動の一環として、エシカルジュエリーを扱う R ethical とコラボレーションし、ボルネオの野生動物をモチーフとしたジュエリーを販売。経費を除く売上の全てが孤児のボルネオゾウのための粉ミルク代や熱帯雨林再生のための植林活動に活用されます。伊勢丹オンラインストアで購入できます。

株式会社わちふいーど
森のささやきシリーズ

ネコのダヤンでおなじみの池田あきこさんは「ボルネオの森を守ろう」のキャンペーンを展開。「森のささやき」シリーズのグッズや絵本の売上げの一部、原画展のオークションなどで緑の回廊に「ダヤンの森」を3か所確保しました。

NPO法人旭山動物園くらぶ
ランチボックスなど

オランウータンのユニークなランチボックスで、子どもから大人まで使いやすいサイズです。売上の一部は「恩返しプロジェクト」の支援に使われ、ボルネオの環境保全に活かされます。旭山動物園内のショップとネット通販で購入できます。

株式会社モンベル
Tシャツなど

ボルネオゾウ、ボルネオオランウータンをデザインした2種類のTシャツは売上げの一部がボルネオの生物多様性活動に使われます。また、BCTJのサポートカードでモンベルの商品を購入すると、金額の5%相当のポイントが寄付されます。

BCTJへの寄付は税金の控除を受けられます

BCTJは、2018年4月11日に認定特定非営利活動法人になったため、法人でも個人でも寄付者は税制優遇を受けられます。

- 法人が寄付した場合の税制優遇
「一般枠」とは別に「特別損金算入限度額」扱いでの損金算入が認められ、一般のNPO法人への寄付より経費として扱える寄付金額が上がります。
- 個人が寄付した場合の税制優遇
個人が認定NPO法人へ寄付をすると「寄付金の控除」を受けることができ、確定申告によって税金の還付を受けられます。



ボルネオ支援自販機 (キンビバレッジ) の設置

設置先企業リストは、P14

購入金額の一部がボルネオ恩返しプロジェクトのサポート資金となります。飲料を買うことで保全活動に直接つながる気軽に行える社会貢献です。



ボルネオ支援自販機 (キリンビバレッジ) の設置

購入金額の一部がボルネオ恩返しプロジェクトのサポート資金となります。
飲料を買うことで保全活動に直接つながる気軽のできる社会貢献です。

設置先企業 + キリンビバレッジ (株) ・ 北海道キリンビバレッジ (株)

設置場所一覧 (2015年7月末)

25 台
大成建設 (株) ・ 大成設備 (株)
本社 (8F、9F、12F、16F、18F)
東北支店 青森 CS センター
東京支店 (馬事公苑 EPR プロジェクト作業所)
千葉支店 (外環田尻作業所 4 台)
横浜支店 (藤沢立杭工事作業所、川崎臨水江現場、大成・佐藤・東洋高速横浜環状北線シールドトンネル工事 6 台、アンパンマン PJ 作業所)
関西支店 (支店、住之江雨水滞水池作業所、難波元町立杭作業所、JR 敦賀舞鶴線橋樑作業所)
九州支店 (串川橋りょう作業所)
大成設備 (株)

12 台
喜田機械産業 (株)
本社、鳴門営業所、穴吹営業所、三好営業所、相生営業所、名田橋機材センター、吉野機材センター、不動 (足場)、香川営業所、藍住営業所、阿南営業所、徳島東営業所

8 台
サラヤ (株) ・ 東京サラヤ (株)
サラヤ (株) (大阪営業所 2 台、大阪工場、本町ビル、伊賀工場、岡山営業所)
東京サラヤ (株) (駐車場、千葉営業所)

6 台
ミサワホーム (株) ・ テクノエフアンドシー (株)
ミサワホーム (株) (ミサワホーム本社ビル、関東資源循環センター 3 台)
テクノエフアンドシー (株) ミサワホーム沼田工場、福岡工場

5 台
NPO 法人旭山動物園くらぶ
旭山動物園動物園くらぶ売店前、オランウータン舎、正門前 No.1・No.2、事務所
福岡市動物園
神戸どうぶつ王国

4 台
(株) 生活の木 (本社オフィス、薬香草園、瑞浪工場 2 台)
(株) アーク (ラフォーレ南市岡、ラフォーレ千本南、シティハイイツミツワ大岡町、ロイヤルレスト本田)

3 台
(株) 道北アークス (ウエスタンパワーズ店 ウエスタン北彩都店 ウエスタン川端店)
(株) 橋本川島コーポレーション (第 1 別館、第 2 別館、札幌支店)
(株) カナモト (土別機材センター 富長野出張所 旭川営業所)
えこりん村 (みどりの牧場、銀河庭園、ガーデンセンター花の牧場)
(株) ゆあん (ぐるーぷりんぐゆあん、ナーシングリビングゆあん、ナーシングリビング エイム)

2 台
(株) 旭川振興公社 (旭山動物園東門喫煙所前、東門エントランス 2F)
(株) asatan (P・G・A P・G・A CLUB)
(株) 厚友会 (旭川市神楽交流センター 旭川市水道局)
酪農学園生活協同組合
昭和木材 (株)
北海道セキツイハイム (株) (本社、道南支店)
総合地球環境学研究所
福山市立動物園
千葉市動物公園
豊橋総合動植物園 (なかつし牧場、遊園地)
(株) 豊興 (本社、豊興第 2 物流センター)

1 台
【北海道】
旭川市 (旭山動物園飼育管理棟 1 階)
(株) 伊藤モータース
花本建設 (株) (本社)
(株) 豊岡建設 (資材センター)
社団法人旭川建設業協会
旭川空港ビル (株) (旭川空港 1 階到着ロビー側)
(株) アシスト (旭川営業所)
赤川建設興業 (株)
(株) ネクス光洋
さんべい動物病院
(株) 生駒組
旭川林産協同組合
(株) 盛永組
(株) 旭川国際ゴルフ場 (旭川国際カントリークラブ)
HJK (株)

(株) 田中組 (旭川支店)
順真会メイプル病院
協同組合ウッディしもかわ (集成材工場)
(株) 片岡鋼業
(株) ほくみん
北海道ガス労働組合
(株) 須田製版 (旭川支社 3F)
(株) 一印旭川魚卸売市場
(株) 壺屋総本店
特定非営利活動法人二ムピン
(株) MDEC (エバーグリーン七条)
大北土建工業 (株) (作工部)
吉田学園動物看護専門学校
(株) 日興ジオテック
(株) 葵開発コンサルタント
北ガスジェネックス (株)
光和自動車工業 (株)
(株) マルセンクリーニング
(株) テクノス北海道
旭川大学 (北辰会館 1F)
アスタ (株)

大成市民センター運営委員会 (大成市民センター)
(有) プレアデス (道北調剤薬局)
北海道キリンビバレッジサービス (株)
北海道キヨスク (株) (JR 旭川駅 2 番ホーム)
北海道旅客鉄道 (株) (JR 旭川駅 3 番ホーム)
キリンビール (株) (北海道千歳工場)
旭川物産協会 道の駅あさひかわ
ライフサポート (株)
(株) 日立製作所 北海道支社
(株) ニチダン旭川
(株) ソユー イオンモール旭川駅前店
本間織維 (株)
(株) ナチュラル
生活協同組合コープさっぽろ 旭川地区本部 (コープさっぽろ 東光店)
昭和マテリアル (株) 札幌営業所
北海道セキスイファミエス (株)
(株) 春夏秋冬住宅型老人ホーム かりん
NPO 法人赤い実の会 MINAMINA
【宮城】 仙台市八木山動物公園
【栃木】 那須どうぶつ王国
【埼玉】 (株) コープクレーン
学校法人 自由の森学園
【千葉】 (株) リーガルコーポレーション
【東京】 東小金井ベクトリニック
(株) 立飛サービス (横河ソリューションサービス)
小澤物産 (株) (ガリバー品川店)
海城中高等学校
【石川】 北陸製菓 (株)
【愛知】 (株) メニコン (メニコン北館音楽ホール)

【京都】 桜ヶ丘動物病院
【滋賀】 堀井動物園
【大阪】 大阪コミュニケーションアート専門学校
大阪動物専門学校天王寺校
共栄設備工業所
丸石化学品 (株)
(株) サバイ総合管理 ビバリーヒルズ花園南
コートコート北大阪
【兵庫】 神戸動植物環境専門学校
J オイルミルズ (株) (神戸工場)
(株) nokoso
(株) オフィスプラント コインパーキング石井町 2
【広島】 (株) フレスタ (横川店)

ボルネオ支援自販機のご紹介



「ボルネオへの恩返しプロジェクト」の最新の情報が報告されています。



オランウータンと、ボルネオゾウ、熱帯雨林、アブラヤシのプランテーションをモチーフにしたデザインが目印。

ボルネオ支援自販機の仕組み

消費者

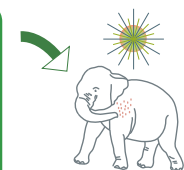
通常価格で購入

ボルネオ支援
自動販売機

ボルネオへの恩返し
プロジェクト資金

売上の 5%~25%

* (設置先企業の設置手数料の一部)



設置企業のご好意で、設置手数料の一部を恩返しプロジェクトにいただいています。

* 設置企業によって、売り上げの 5%~25% と幅があります

BCTJ の歩み

2006

マレーシア国に「ボルネオ保全トラスト (BCT)」が設立され、サバ州政府に免税団体として認可される

2007

特定非営利活動法人ゼリ・ジャパンが BCT 支援の日本窓口となるボルネオゾウの餌やり体験募金 (福山市立動物園)
パネル展 (多摩動物公園、よこはま動物園ズーラシア、市川動物園)
SAGA11 ブース出展 (多摩動物公園)
10 ブース出展 (恩賜上野動物園)

2008

緑の回廊「小さな森」獲得
オランウータンの吊り橋 1 号架橋 (キナバタンガン川支流ムナンゴール川)
ボルネオ保全トラスト・ジャパン (BCTJ) 設立 (特定非営利活動法人認証申請)
LUSH JAPAN の助成決定 (組織強化)
パネル展 (千葉市動物公園、天王寺動物園)
SAGA11 ブース出展 (多摩動物公園)
特定非営利活動法人 (NPO 法人) の認証取得

2009

緑の回廊「サラヤの森 1」「ゾウさんの森」獲得
国際フォーラム「パーム油から見る生物多様性と企業の役割」(国連大学)
オランウータンの吊り橋 2 号架橋 (キナバタンガン川支流ルサン川)
アースデイ神戸 2009 (ブース出展)
講演会「ボルネオへの恩返し」アート展 & コーヒーアワー (世界銀行 PIC 東京)
SAGA12 ブース展示 (到津の森公園)
「ジャングル・クリスマスフェスタ in 白金」(明治学院大学)
ボルネオアート展 (表参道)
パネル展 (板橋区立熱帯環境植物館、ぐんま昆虫の森、よこはま動物園ズーラシア)

2010

緑の回廊「パールの森ミニ」「草太郎の森」「サラヤの森 2」「サラヤの森 3」「ダヤンの森 1」獲得
サバ州野生生物局 (SWD) 局長講演会 (東京、大阪)
SWD と旭山動物園の覚書調印式
生物多様性シンポジウム (旭山動物園)
ロハ展 2010 (新宿) ブース出展
吊り橋第 1 号を渡るオランウータンの撮影に成功
ワークショップ (大阪キッズプラザ)
SWD へボルネオゾウの移動用檻を贈呈 (サバ州)
三井物産環境基金助成 (オランウータンの吊り橋)
オランウータンの吊り橋 3 号架橋 (キナバタンガン川支流タカラ川)
ボルネオ緑の回廊シンポジウム (生物多様性条約第 10 回締約国会議)
ワークショップ (東山動物園)
Panasonic NPO/NGO サポートファンド助成決定 (組織強化)
エコプロダクツ 2010 ブース出展 (東京ビッグサイト)
ジャングル・クリスマスフェスタ in 白金・表参道・丸の内
パネル展 (板橋区立熱帯環境植物館)

2011

緑の回廊「緑子の森」「カンバジの森」「ハンティング ワールド ジャパン共生の森 1」「サラヤの森 4」「コープの森 1」獲得
「持続可能なパーム油シンポジウム」(国連大学)
ワン・ワールド・フェスティバル ブース出展 (大阪)
オランウータンの吊り橋 4 号架橋 (キナバタンガン川支流タカラ川)
ワークショップ (大阪キッズプラザ、千葉市動物公園、市川市立動物園、東山動物園)
大成建設による野生生物レスキューセンター建設現場調査
SAGA14 ブース出展 (熊本市動物園)
吊り橋シンポジウム (千葉市動物公園)
パネル展 (板橋区立熱帯環境植物館)

2012

緑の回廊「Banana Republic Forest」「吊り橋の森」「ふくちゃん」の森」「コープの森 2」「サラヤの森 5」獲得。
パーム油白書 2011 刊行 (以降、毎年刊行)
環境教育テキスト刊行
吊り橋国際シンポジウム (京都、東京)
野生生物レスキューセンター建設中間報告会 (旭川)
吊り橋ワークショップ (東京・羽根木公園、大阪・天王寺動物園)
地球環境基金助成決定 (オランウータンの吊り橋)
オランウータンの吊り橋 5 号架橋 (キナバタンガン川支流ピン川)
ワークショップ (市川市立動物園)
野生生物レスキューセンター 1 期工事起工式 (サバ州)

2013

緑の回廊「幸の森」「ダヤンの森 2」獲得
ワン・ワールド・フェスティバル ブース出展 (大阪)
野生生物レスキューセンター第 1 期工事終了および開所式
オランウータンの吊り橋 6 号架橋 (キナバタンガン川支流ピン川)
パネル展、ワークショップ (高崎市立フェニックス自然動物園)
SAGA16 ブース出展 (高知県立のいち動物公園)

2014

ワン・ワールド・フェスティバル ブース出展 (大阪)
オランウータンの吊り橋 5 号および 6 号に自動撮影カメラ設置
ワークショップ (京都エコロジーセンター)
ブース展示 (モンベル・フレンドフェア、京都市動物園)
野生生物レスキューセンター追加工事終了及び SWD への贈呈
サービスグラント助成決定
連続セミナー (板橋区立熱帯環境植物館)
野生生物レスキューセンター ベンキ塗りワークショップ (サバ州)
ボルネオ生物多様性国際シンポジウム (国連大学)
公益財団法人 社会貢献支援財団より社会貢献賞受賞

2015

緑の回廊「コープの森 3」獲得
ワン・ワールド・フェスティバル ブース出展および講演会 (大阪)
経団連自然保護基金助成決定 (植林プログラム)
ボルネオ植林ツアー (キナバタンガン川流域)
連続セミナー (板橋区立熱帯環境植物館)
ZOO でしょ! 連続講演会 (Gallery Care *Kirin*)
アースデイ浜寺公園 ブース出展
台北動物園がボルネオへの恩返しプロジェクトに参加
ワークショップ (京都エコロジーセンター)

2016

緑の回廊「ハンティング ワールド共生の森 2」「ツノサイチョウの森」「オランウータンの森」
ワン・ワールド・フェスティバルブース出展 (大阪)
京都市動物園「野生動物学のすすめ」ブース出展
ダイハツ ハイゼットトラックを SWD への贈呈式 (旭川・コタキナバル)
ボルネオ植林ツアー (キナバタンガン川流域)
連続セミナー (板橋区立熱帯環境植物館)
子ゾウ用ミルク 1 トンを SWD に寄付
三井物産環境基金助成決定 (生態調査)

2017

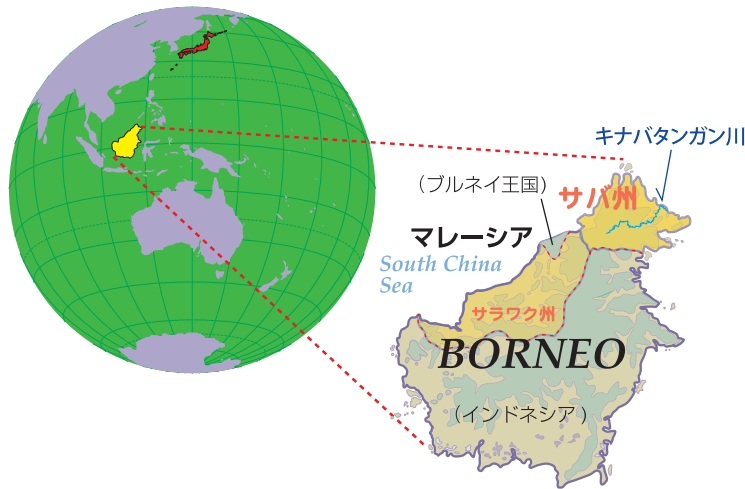
緑の回廊「生活の木」の森」「コープの森 4」「サラヤの森 6」「ヒゲイノシシの森 1」「ヒゲイノシシの森 2」「ボルネオゾウの森」
ワン・ワールド・フェスティバル ブース出展 & 講演会
BES のゾウのエサ支援開始
ブース出展と連続ワークショップ (咲くやこの花館)
ミュージカル&連続セミナー (板橋区熱帯環境植物館)
講演会 (石田・黒鳥、清水美香、柏倉陽介)
ブース出展 (福山動物園、埼玉子ども動物園、京都市動物園、千葉市動物公園)
SAGA20 ブース出展 (日本モンキーセンター)
子ゾウ用ミルク 1 トンを SWD に寄付

2018

緑の回廊「ハンティング・ワールド共生の森 3」「サラヤの森 7」獲得
ワン・ワールド・フェスティバル ブース出展
豊橋総合動物園、福岡市動物園、鹿児島市平川動物公園、神戸どうぶつ王国、那須どうぶつ王国、旭山動物園、BCTJ で、ボルネオ声帯保全活動に関する協定締結
サントリー世界愛鳥基金助成決定 (サイチョウ保全)
特定非営利活動法人の認証取得
損保ジャパン日本興亜環境財団 CSO ラーニング制度によるインターンシップ
ワークショップ (大阪学院大学、甲南女子大学、神戸どうぶつ王国、豊橋総合動物園)
咲くやこの花館ブース出展と連続ワークショップ・ミュージカル & 講演会 (協力: 甲南女子大学・大阪学院大学)
恩返しプロジェクト 10 周年記念講演会 (旭川)
連続セミナー (板橋区熱帯環境植物館)
世界のゾウを考えるシンポジウム (国立科学博物館)
SAGA21 ブース出展 (熊本市動物園)
ブース出展 (京都市動物園、千葉市動物公園、モンベルクラブ・フレンドフェア 2018 (大阪・横浜) エコプロダクツ展)
子ゾウ用ミルク 1 トンを SWD に寄付

~2019.4月

ワン・ワールド・フェスティバル ブース出展
ワークショップ (平川動物公園)
サイチョウ保全プロジェクト報告会 (東京、大阪)
生態調査プロジェクト報告会
連続セミナー (板橋区熱帯環境植物館)
サントリー世界愛鳥基金助成決定 (サイチョウ保全)
ブース出展 (SC ビジネスフェア 2019、京都市動物園)
三井物産環境基金助成決定 (井戸つくり)



ボルネオの生物多様性保全活動に参加するには

会員・サポーターになる <http://www.bctj.jp/support/#members>

- 個人正会員 年会費 5000円 ■ 個人賛助会員 年会費 3000円
- 法人正会員 年会費 70000円 ■ 法人賛助会員 年会費 50000円
- マンスリーサポーター 月会費 300円～
- 緑の回廊土地のオーナー 年会費 3000円～
- キッズサポーター 年会費 500円



寄付をする

クレジットカード決済

公式ウェブサイトをご利用いただけます

銀行振込口座

みずほ銀行 品川支店 (店舗番号195)
 口座名義 特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン
 フリガナ トクヒ) ボルネオホゼントラストジャパン
 口座番号 1315067



郵便振替口座

加入者名 ボルネオ緑の回廊基金
 口座番号 00160-9-595712
 ※緑の回廊、ボルネオへの恩返し、と寄付先をご指定ください。

その他の方法

チャリティグッズの開発やボルネオ支援自販機の設置、プロボノ(ご自身の専門知識やスキルを活かす社会貢献) などさまざまな方法でBCTJをご支援いただけます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

* 事業報告および会計報告は公式ウェブサイトに掲載しています。

<http://www.bctj.jp/about-us/>

認定 NPO 法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン

〒140-0002 東京都品川区東品川1-25-8 2F

URL:<http://www.bctj.jp> TEL:03-3471-4966 E-mail:info@bctj.jp

<https://www.facebook.com/bctjapan>

<https://twitter.com/bctjapan>

■発行 BCTJ事務局 ■編集 森井真理子 ■デザイン 池田泰子 ■【表紙写真】阿部雄介 【写真】SWD、木村尚之(スタジオ・エル)、BCTJ 会員

■発行 2019年5月

